

平成 31 年度学校評価シート

令和 2 年 2 月 21 日

青梅市立第三小学校

平成31年度 学校評価シート

＜学校経営方針の重点＞

1 確かな学力の向上

2 豊かな心の育成

3 基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成

4 健やかな体の育成

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	自己評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
学力の向上	よく聞き、よく考え、最後までやる児童を育てる。	言語活動の充実を図り、読む、書く、聞く話す、計算する力の確実な定着と充実した授業実践を図る。	<p>学力調査やベーシックドリルの活用を図り、児童一人一人の学習理解度を把握し、指導に生かす。朝のモジュールの時間を活用し、「+5点プロジェクト」を推進し、学力の向上を目指す。</p>	B	<p>算数はベーシックドリルの分析により弱点を補強する指導ができた。達成感を持たせる指導は昨年と比較し+7ポイントの上昇。学級により実施状況には幅がある。</p>	<p>学力向上委員会を中心にベーシックドリルの取り組み、課題分析、改善を行うことを継続するとともに、「できた」「わかった」を大切にする授業を展開する。補習学習も効果のある取り組みに改善する。</p>	B	<p>PISA への対応として取り組みも必要。学力テスト対策等への取り組みは必要でありやっていくことを求める。基礎基本と応用力、どちらを主軸にするか判断をしていくことも大切。</p>	<p>学力調査の結果の分析（学力向上委員会）をもとに本校の課題に対応する授業を行う。ベーシックドリルの計画的な取り組みと効果ある補習学習を行うとともに、学ぶ意欲を育てる授業をする。</p>
			<p>図書支援員との連携を図り、朝読書や読み聞かせ、読書期間、「おすすめの本カード」の活動を充実させ、読書好きの子供を育てる。</p>	B	<p>昨年に比べ、図書指導が充実している回答する教員の割合は減少。保護者評価でも読書週間が良かったとは言い難いとの声が多い。</p>	<p>読書習慣は学校だけの取り組みではなく、保護者の協力も必要である。保護者評価では読書習慣に否定的評価が多いので改善に取り組む。</p>	B	<p>読書環境としての図書室の改善を試みるとよいのではないかと実践例が紹介されている情報もあつた。保護者の啓発よりも環境改善に力を入れたい。</p>	<p>読書習慣を育てるための時間の確保、図書室の整備（図書ボランティア）を進める。図書館との連携、学びと心の育成事業の効果的な活用により、学習環境としての図書館の充実を図る。</p>
			<p>1時間ごとの指導のねらいを明記した週案を作成し、1時間の授業実践を充実させる。週案を実践記録として、結果を授業に生かす。</p>	C	<p>教員評価では、授業改善が進んでいないとする回答が増えた。保護者評価では基礎的、基本的な学習は充実しているとの回答が85%であった。</p>	<p>週の計画はできているため、継続するとともに、授業の振り返りを定期的に行わせる。また、基礎基本の定着度を図るために上記学力調査等の分析をさらに行い課題把握を組織で行う。</p>	C	<p>週毎の指導計画は必要であるか、とも考えるが、年間予定、月予定を落とし込んで日々の計画を立てるのであれば有効な手段である。学年相互の共通理解も必要である。</p>	<p>ねらいを明示した指導計画を今後も充実させる。授業改善のために計画を振り返り、常に改善する。学年相互の関連性を明確にした指導計画をもとに基礎基本を定着させる。</p>

豊かな心の育成	思いやりがあり仲良くする児童を育成する。	児童相互によさや価値を認め合い、一人一人の存在が認められるよう教育活動全体を通して指導を行う。	道徳の時間や全教育活動を通して自分の生き方を振り返らせ、自他を尊重しようとする心情を育てる。	B	30年度 AB 合計が72%→84%に向上した。研究の成果として道徳の公開を行っていることが良い結果をもたらした。	今年度の道徳教科化に伴う学校での研修は効果が出ているので、成果を次年度にも生かす。授業の効果を測定するために保護者アンケート等を生かす。	B	授業の様子は教員により個人差が見られた。教師の思いを押し付けず多様な価値観に触れる授業を展開してほしい。	道徳授業の考え方、進め方等は一年間の研究・研修の成果として定着した。保護者向けの道徳講座の充実、意見交換会への参加等を通じて啓発にも充実させる。
			都立青峰学園、かすみ学級と通常学級の交流を積極的に行い、交流・連携活動の充実を図る。	C	昨年度肯定的評価が59%で今年度は65%に上昇。A評価は2倍になった。積極的な交流により日常の児童の姿にも成果が表れている。	給食交流は今年度の改善で効果が実感されている。交流の機会を精査し、かすみ学級と通常学級の交流を相互理解の場として活用する。	B	通常級、支援級の温度差をなくすように指導する必要がある。青峰学園からは三小の取り組みは評価が高い。	かすみ学級、通常学級相互に意義のある取り組みとするために、計画を精査し効果測定を行う。都立青峰学園との交流(かすみ学級、4学年)を継続実施する。
			自然体験活動や動植物の飼育・栽培活動を積極的に行う等、情操教育を進める。	B	昨年度とほぼ同じ評価であった。低学年は特に体験的な学習、かすみ学級は生活単元等で行っている。	青梅の自然環境を生かした取り組みをするため、遠足や社会科見学等の計画を見直す。	B	昨今の状況から動物飼育は困難と考える。青梅にある自然環境を教育に生かしていきたい。	本校の特色ある教育活動(かすみ水辺の学校、どんぐりフェスティバル)を通じて自然体験活動を進める。
生活習慣と規範意識	望ましい生活習慣を身に付け、いじめや不登校のない学校づくり	学習効果を高める授業規律・生活規律の確立と「あじみこし」の推進。全校を挙げて組織的に学校問題に対応する。	どんな場面でも、「はい」「~です」と応えることのできる児童を育てる。	B	肯定的評価は75%から85%になった。A評価は昨年度の5倍である。	年度開始の共通理解を図るとともに、本校の重点的な取り組みとして保護者地域への啓発を進める。	A	家に帰ってからできているか。外部の来客等への挨拶はどうか。前に比べてよくなっていることは確かである。学校の底力をつけるために徹底させてほしい。	意識して指導しているため取り組みについての教員評価は高い。規律が身に付いていることを実感できるよう学校公開等でも外部評価を取り入れる。三中校区として学習規律・生活規律の確立を図る取り組みを一貫して行う。
			「あじみこし」や「語先後礼」を児童・教職員が身に付けていく。	B	上記の評価とほぼ同じ値であり、A評価は5倍に増えた。	教員自身が「あじみこし」を実践し、率先して行動し、一貫した指導を徹底する。	B		
			児童理解を深め、教職員で情報を共有し、課題の早期発見・早期対応を心がける。	A	すべての評価項目の中で最も評価が高い。しかし、昨年度よりA評価は減少した。	情報共有ができていないことは今年度大きく改善された。情報共有することによる組織的対応をさらに進める。	B	事故や問題等負の面での共有だけではなく、よい行動なり実践なりを共有したい。	課題だけではなく、児童の成長や良さを生活指導夕会等で共有する。課題の共有方法は継続するとともに、組織的対応を通して効果の上がる取り組みにする。

健やかな体	心身ともに健康でたくましい子を育成する	安全教育の推進や児童の体力面の課題に即した運動を授業の中で取り組む。	体力テストの結果をもとに、一校一取組の運動を計画的に進める。	B	肯定的評価が下がり、(85%→77%)、C評価が増えた。一校一取組は成果がはつきり見られなかった。	マラソンチャレンジ、縄跳びチャレンジ等、児童の意欲を喚起する取り組みを継続し、客観的に効果を測定・分析する。	B	青梅のイベント(青梅マラソン等)にも時期を合わせてみると意欲の喚起になるのではないかな。	体力テストの分析を精査し、本校の課題を明らかにしたうえで、現在の取り組みの見直し、改善を行う。外部イベントとも時期を合わせる計画にする。
			避難訓練や安全指導、交通安全教室等を通して安全に向けた意識を高める。	B	肯定的評価が95%→81%に下がった。安全に対する意識が反省される原因は例年に比べて怪我が多くあったことに起因する。	安全指導を組織的に行うため、看護当番等を徹底する。避難訓練は消防署と連携した取り組みをする。	B	地域との連携はよい。避難訓練は実際の災害には本当に対応できるか。抜き打ちの避難訓練も効果あると考える。	避難訓練は時期・内容を改善するとともに、実際の災害に即した内容にする。三校合同の引き取り訓練を新規に実施する。
その他の重点	教員の資質向上	校内OJTの取り組み。	全教職員が経験年数、職責に応じて、日々継続してOJTを行う。	B	昨年度評価とほぼ変わらない。若手育成のためのファイル、発表会は定着して一定の効果が表れている。	継続して取り組むことに意義がある。互いに学び合う文化を醸成するため、OJT研修をさらに充実させ役立つものにする。	B	独自の取り組みである起業家教育はとても良い。青梅のよさをひろめるというコンセプトとしてよい考え方である。	校内OJTの取り組みは成果を上げている。継続し発展させて行く。
	地域や外部との協働	地域や外部と協働する教育活動の展開。	地域や外部の魅力ある力を積極的に取り入れ、郷土を活かした起業家教育、JAXAとの宇宙教育を継続、発展させる。	B	肯定的評価は前年と同様であるがA評価が-10%。地域との連携した学習は各学年とも昨年度同様の取り組みをしている。	起業家教育、地域の学習、朝学習、朝先生等、本校の特色として取り組んでいることによる効果を客観的に分析する。宇宙の学校などの取り組み等継続実施する。	A	肯定的評価が減少しているが、実際の取り組みとしては精力的であり魅力となっていることは確かである。	起業家教育は三小の特色ある教育活動として継続実施する。地域・外部との共同による教育活動(朝先生、宇宙の学校等)はよい取り組みとして継続実施する。
	情報の公開	積極的な情報公開と広報活動。	ビジュアル資料を活用し、新しいHPや会合やたより等で教育活動を広報する。	C	肯定的評価は昨年度20%減。ICT教育は来年度を見据えてプログラミング教育等にも取り組んでいるところである。	昨年以上の様々な形での情報公開や情報発信を行った。肯定的評価の数字が減少したことの分析が必要である。	B	広報活動は積極的であると評価できる。継続していくことが特色になっていく。	HPの更新頻度を上げたことは評価されている。これまでと同様、本校の取り組みを積極的に情報発信する。
	組織力の向上	効率的なラインを活かした体制づくり。	協働体制を確立し、日々の問題への対応や業務の効率化を図り、働き方改革を積極的に進める。	B	昨年度AB合計75%、今年度A0%B85%であった。生活指導面での相談連絡は遅滞なく行われる文化が育っている。	業務効率化は留守番電話の導入、勤務管理システムで図られた。校務支援システムの導入期なので混乱も見られるが、効率化されるように業務改善を進める。	B	留守番電話はクレーム等ないだろうか。実際に業務軽減につながっているのなら取り組みとして評価できる。	業務の効率化は進んでいない。協働体制の確立を確実に行うとともに、校務支援システムの効率的運用を具体的に進める。